

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
新東京歯科技工士学校		昭和56年3月30日	福原 達郎		〒143-0016 東京都大田区大森北1丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人東京滋慶学園		昭和61年2月1日	中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北1丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211		
目的	歯科技工士科 I 部は患者の笑顔と健康をサポートできる、基本が徹底的に強い、凛とした医療人(歯科技工士)を養成します。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
医療	歯科技工士 専門課程		歯科技工士科 I 部		平成22年文部科学 省告示第五十三号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間		2268	726	0	1542	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180 人		125 人		9 人	33 人	42 人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は試験結果、出席状況、学習態度、実習作品で評価する その評価は ・AA(90点～100点) ・A(80点～89点) ・B(70点～79点) ・C(60点～69点) ・D(59点以下不合格)で行い C以上で合格とする		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月10日～8月20日 ■冬季:12月25日～翌年1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級 条件	■成績評価 C以上 ■出席日数・取得時間数 授業時間数の2/3以上で		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 ・歯科技工士会と連携した 研修会の開催 ・各種講習会、デモンショ-の参加 ■サークル活動: 有		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 歯科技工所、歯科診療所、大学歯科 病院、歯科機材メーカー ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 88 % ■その他 進学者7名 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年7月31日 時点の情報)			主な資格・ 検定等	歯科技工士免許		

中途退学の現状	■中途退学者 10名 平成27年4月1日 在学者 127名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 117名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 7.9%
	■中途退学の主な理由 生活習慣問題、病気	
	■中退防止のための取組 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC(学校カウンセラー)との連携強化	
ホームページ	URL: http://www.dt.ntdent.ac.jp	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年8月1日現在

名 前	所 属
福原 達郎	新東京歯科技工士学校
三鶯 雅子	新東京歯科技工士学校
西澤 隆廣	(社)東京都歯科技工士会
久木野 正宣	(株)東洋歯科
木下 隆之	(株)STLデザイン
高橋 友深	新東京歯科技工士学校
中村 聖之	新東京歯科技工士学校
今井 リカ	新東京歯科技工士学校
小島 三知長	新東京歯科技工士学校
富野 浩子	新東京歯科技工士学校
鈴木 勝巳	新東京歯科技工士学校

(開催日時)

第1回 平成28年6月16日 9:00~11:00

第2回 平成28年10月13日 9:00~11:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
選択必修科目	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考にする。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	(株)STLデザイン、(株)オーリアラ、(株)佐藤歯研、DSデンタルスタジオ(株)、(株)メディナ、ケン・デンタリックス(株)、(株)ジーシー等

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修は教員の授業内容・方法及びクラスマネジメント能力を含む指導力を向上させる為に実施する。研修の対象は専任教員、学科長及び教務部長とし、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた研修方法、到達目標、並びに評価指標を定めて実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年8月1日現在

名 前	所 属
鍛冶田 忠彦	昭和大学歯科病院
陸 誠	保護者
阿部 隆一	東星学園高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会
吉澤 和之	株式会社 オーリアラ

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

授業科目等の概要

(歯科技工士専門課程歯科技工士学科 I 部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			造形美術概論	歯や歯列のデッサンを通して、形態のとらえ方や、立体的な形態の表現力について学ぶ。	1年次前期	16	1	○	○		○			○	
○			歯科技工学概論	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性・歯科技工物についての概略を学ぶ。	1年次前期	20	1	○			○		○		
○			歯科英語	歯科に關係する英単語を中心とした歯科英語について学ぶ。	1年次前期	16	1	○			○			○	
○			英会話入門	基本的な日常英会話やトラベル英会話について学ぶ。	1年次後期	16	1	○			○			○	
○			キャリアデザイン I (コミュニケーション技法)	「聞く、話す、読む、書く」の国語力を通して、コミュニケーションの技法を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○		○		
○			歯科技工学実習基礎 I (導入教育授業)	研究用模型、作業用模型の製作や口蓋板の製作を通して、様々な歯科材料の加工法や器具・機械の取り扱い方について学ぶ。	1年次前期	34	1			○	○		○	○	
○			関係法規	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」とその関連法規について学ぶ。	2年次前期	16	1	○			○		○		
○			歯科理工学基礎 I	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	1年次前期	32	2	○			○		○		
○			歯科理工学基礎 II	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	1年次前期	32	2	○			○		○		
○			歯科理工学応用	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について、実習物の製作に応用できる知識を養う。	2年次前期	16	1	○			○		○		
○			歯科材料加工実習	歯科技工士が使用する様々な歯科材料の取り扱い方について学ぶ。	2年次前期	110	3			○	○		○	○	

○		デジタル歯科技工	CAD/CAMなどの最先端のデジタル歯科技工技術について学ぶ。また、CAD/CAM操作を体験し、デジタル歯科技工に対応できる現場力を養う。	2年次後期	30	1				○	○			○	○
○		歯の解剖学基礎	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	1年次通年	48	3	○				○			○	
○		歯の解剖学応用	歯や顔面の発生、歯の組織について学ぶ。	2年次前期	16	1	○				○			○	
○		歯型彫刻基礎 I	歯のデッサンや石膏棒で歯型彫刻を行う。	1年次前期	90	3				○	○			○	○
○		顎口腔機能学基礎	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせ・技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	1年次後期	16	1	○				○			○	
○		顎口腔機能学応用	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせの様々な様式について学ぶ。	2年次前期	16	1	○				○			○	
○		顎口腔機能学実践	フェイスボウトランスファーを体験し、半調節性咬合器の取扱い方について学ぶ。	1年次後期	30	1				○	○			○	○
○		全部床義歯技工学	虫歯や歯周病によって全ての歯を失った場合に装着する義歯(総入れ歯)について学ぶ。	1年次前期	32	2	○				○			○	
○		部分床義歯技工学	虫歯や歯周病によって部分的に歯を失った場合に装着する義歯(部分入れ歯)について学ぶ。	1年次後期	32	2	○				○			○	
○		有床義歯技工学応用	金属床義歯についての知識、技術について学ぶ。また有床義歯技工学について総合的に復習する。	2年次前期	16	1	○				○			○	
○		全部床義歯技工学基礎実習	全部床義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次前期	84	2				○	○			○	○
○		部分床義歯技工学基礎実習	部分床義歯(部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次後期	88	2				○	○			○	○
○		有床義歯技工学応用実習	金属床義歯の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	94	3				○	○			○	○
○		有床義歯技工学総合実習	全部床義歯の人工歯排列～歯肉形成の反復トレーニングを行い、全国歯科技工士教育協議会認定試験の合格を目指す。	2年次後期	100	3				○	○			○	○
○		歯冠修復技工学基礎	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った歯科技工物の要件、製作順序、インレー、全部金属冠等について学ぶ。また、歯を喪失した場合の歯冠修復物であるブリッジ等について学ぶ。	1年次通年	64	4	○				○			○	

○		小児歯科技工実習 (歯科技工実習)	クラウンループ等の製作を通して、小児歯科技工に必要な基本的な製作技術と小児歯科治療の流れを学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○			○	○
○		セラミック加工応用実習 (歯科技工実習)	マージンポーセレン及び内部ステインテクニックで、審美的な陶材焼付金属冠を製作する。	2年次前期	30	1				○	○			○	○
○		先進技工学応用 (歯科技工実習)	新しく開発された技術や材料、その製作方法を学び、それを応用できるようにする。	2年次前期	24					○	○			○	○
○		合同実習Ⅱ (歯科技工実習)	合同実習を通して、コ・デンタルスタッフの仕事をより広く理解する。	2年次前期	6					○	○			○	○
○		課題研究実習 (歯科技工実習)	今までに習得した知識・技術を結集し、卒業課題研究作品を完成させることにより、歯科技工士としての専門性を磨き、各自の得意分野を伸ばす。	2年次 通年	90	3				○	○			○	○
○		歯型彫刻応用 (歯科技工実習)	歯のデッサンや石膏棒で歯型彫刻を行う。	2年次 後期	60	2				○	○			○	○
○		歯科技工実習総合Ⅰ	実習試験を通して、日頃の授業で習得した知識や技能の確認をし、今後の課題を見つける。	1年次 通年	48	1				○	○			○	○
○		歯科技工実習総合Ⅱ	実習試験を通して、日頃の授業で習得した知識や技能の確認をし、今後の課題を見つける。また実習試験のための模型準備を行う。	2年次 通年	54	1				○	○			○	○
○		総合歯科技工学Ⅰ (選択必修科目)	国家試験対策(学説)として、主要科目(有床、修復、理工等)の模擬試験及び解説講義を行う。	2年次 前期	60	4	○				○			○	
○		総合歯科技工学Ⅱ (選択必修科目)	国家試験対策(学説)として、模擬試験及び解説講義を行う。	2年次 後期	152	10	○					○			○
○		インターシップⅠ・Ⅱ (選択必修科目)	インターンシップを通して、仕事と職場を理解する。	1,2年次 前期	32						○			○	
合計				52 科目	2268時間(87単位)										

卒業要件及び履修方法

授業期間等

学年ごとに必須単位数を修得し進級する。

全科目履修で卒業となる。

1 学年の学期区分 | 前期・後期

1 学期の授業期間 | 22週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。